

「第16回産業日本語研究会・シンポジウム」の開催について

令和6年12月

産業日本語研究会世話人会

代表：井佐原 均	(追手門学院大学)
委員：辻井 潤一	(産業技術総合研究所)
橋田 浩一	(理化学研究所)
内山 将夫	(情報通信研究機構)
柏野 和佳子	(国立国語研究所)
李 在鎬	(早稲田大学)
西出 隆二	(日本特許情報機構)

開催趣旨：

生成AIと言葉、そして私たちの生活はどのように変わっていくか

産業日本語研究会では、産業・科学技術情報の発信力強化や知的生産性の向上を通じて、わが国産業界全体の国際競争力強化に資するような、人間が理解しやすく機械が処理しやすい日本語（「産業日本語」）のあり方を研究しています。この「産業日本語」の研究は、明瞭な日本語文の作成、高品質な翻訳文の作成コスト低減などにつながるものです。

近年、学習したデータに基づいて文書や画像などを生成することができる生成AIの開発や実用化が急速に進んでおり、人間の仕事や作業を支援するツールとしての利用が進展しています。一方で、生成AIの利用が進むことにより、言葉のあり方や安全性の問題など、私たちの生活に大きな影響を与える可能性があります。

このような背景のもと、今回のシンポジウムでは、「生成AIと言葉、そして私たちの生活はどのように変わっていくか」をテーマとし、生成AIの利用が加速する中で、生成AIの仕組みや動作、コミュニケーションへの活用、リスクなど、産業日本語の未来を考える上での最新の知見やトピックスを広くご紹介いただきます。本シンポジウムが、産業日本語の更なる普及につながり、我が国産業界に大いに貢献できる機会になることを期待しております。

産業界、学术界などからの、多くの皆さまのシンポジウムへのご参加をお待ちしております。